

優秀な技能・技術を持ち後進への指導・育成などで 木住協推薦の大工技能者3人が国交大臣から「建設マスター」に顕彰 「建設ジュニアマスター」にも2人が顕彰

令和2年度の優秀施工者国土交通大臣顕彰(建設マスター顕彰)の受賞者が国土交通省から発表され、木住協が推薦した会員企業3社に所属する3人の大工技能者が「建設マスター」に顕彰された。同時に発表された、今後の活躍が期待される青年技能者を顕彰する青年優秀施工者土地・建設産業局長顕彰(建設ジュニアマスター顕彰)でも、会員企業2社の2人が「建設ジュニアマスター」として顕彰された。5人はいずれも高い技能・技術力を持っており、今後の活躍が期待されている。なお例年、東京都内で開催されていた顕彰式典は、新型コロナウイルスの感染予防の観点から、残念ながら開催が中止された。

優秀施工者顕彰制度は、「ものづくり」に従事されている方々に誇りと意欲を持っていただくとともに、次世代の建設現場の担い手を確保・育成し、一層の技術・技能の向上を図ることを目的に、1992(平成4)年に国交省が制度化したものの。20年以上にわたって建設工事に従事して現役で活躍している建設技能者のうち、技術や技能・人格面で優れ、若手技能者の育成に努めている方々を顕彰している。選考基準は①技術・技能が優秀であること、②施工の合理化に貢献している、③後進の育成・指導に努めている、④安全・衛生の向上に貢献している――などを条件に、所属している住宅・建設団体からの推薦によって選考される。

長年にわたり無事故で住宅施工に従事

今年度「建設マスター」として顕彰されたのは、住友林業(株)の施工を担当している神野工務店の神野靖浩さん(57歳)と(株)土屋ホームの社員大工である住谷康貴さん(42歳)、ポラテック(株)の専属大工の西條正宏さん(61歳)の3人。

このうち神野さんは、東京都内の公立高校を卒業した後、37年6ヵ月間にわたって大工職に従事している。住友林業の難易度が高い高額・特殊物件を手掛け、施工実績の約8割は



神野靖浩さん



住谷康貴さん



西條正宏さん

指名を受けての施工となっており、技術力には定評がある。技能や技術力の高さはトップクラスで、安全管理や工程管理、原価管理の面でも貢献度が高く、常にお客さま目線の施工を心掛けているため、お客さまだけでなく近隣からも評価が高いという。今まで施工した物件でクレームは一切なく、回りの職方からの信頼も高い。

技術開発や施工の合理化では、破風板と軒天材の隙間の対処法を独自で発案した治具を用いて解消し、軒天材の不陸を木下地の段階から電気鉋を使用して軽減した。2人の後進を育成し、お客さまや取引先から満足と信頼を得るための現場管理のノウハウを伝え続け、「元請けから指名のくる大工職になるよう」に指導している。無事故期間は22年6ヵ月間に達し、住友林業から優秀施工表彰のほかに安全衛生功労賞も受賞している。

住谷さんは、道立の工業高校卒業後に土屋ホームの職業訓練校である土屋アーキテクチャカレッジの第7期生として入社。大工の基礎を1年間学んだ後に札幌市や栃木県内で技を磨き、地域特性を考え難易度の高い住宅建設に携ってきた。在籍する約100人の大工職の中で1、2を競う売上高・施工棟数を挙げており、昨年の全社大会で優秀技能賞を受賞した。同社の主力構法である「B E S-T構法」の開発プロジェクトの一員として、省エネ性能や高气密性、耐久性の向上、工期短縮などに寄与した。年間10棟前後の住宅を施工しており、高難易度物件やモデルハウス、大型物件の施工も数多い。

入社以来23年6ヵ月間もの無事

故を続け、率先して現場の清掃を続け、お客さまから絶賛されている。現場には毎朝誰よりも早く到着し、「建て方・大工安全作業手順」に則って安全確認を怠ることがないという。2009年に一級技能士の資格を取得し、入社3～5年の後進大工職の指導育成にも努めている。大工指導期間は約15年間にもなる。

ポラテックの専属大工で一人親方の西條さんは長野県内の高校を卒業して地元工務店に就職、1997年に同社の専属大工となった。大工としての就業期間は通算で43年6ヵ月におよんでいる。同社の大工職約400人の中で最も技術・技能が優秀な施工者の一人で、これまでに160棟以上の施工現場を手掛け、グッドデザイン賞を受賞したモデルハウスの施工も担当した。引き渡し後のお客さまから高い評価を受け、C S認定業者として過去3回、C S表彰も4回受賞している。

ポラスグループ内の改善会議に加わって積極的に改善提案を行っているほか、大工・職人の会である中央工匠会会長や協力会の役員を務め、現場の安全や施工技術の向上などを後進に指導している。無事故期間は22年5ヵ月で、安全衛生活動に貢献したとして2002年度に優秀現場貢献賞を、2018年度には他の建設現場従事者の模範として優秀施工表彰を受賞している。

29回目を迎えた今年度の建設マスター顕彰では、全国で455人が顕彰されており、これで延べ10,984人が建設マスターとなった。各顕彰者には顕彰状と建設マスターの徽章が授与された。

独自の技術や技能を十二分に発揮

一方、次代の建設現場の担い手を確保・育成して、建設マスターに達するまでの技術・技能の向上を図ることなどを目的とした青年優秀施工者土地・建設産業局長顕彰では、住友林業ホームエンジニアリング(株)の大工技能職の谷川雅俊さん(38歳)と、ポラスグループの施工を行っているポラスハウジング協同組合の坂本司さん(31歳)の2人が建設ジュニアマスターの顕彰を受けた。

このうち谷川さんは宮崎県の公立工業高校を卒業して同社に入社し、1年間にわたって住友林業建築専門校で技能を高めた。7年後に独立し、2010年に住友林業ホームエンジニアリングに再入社した。大工の従事期間は20年6ヵ月間におよび、この間に2級建築士と1級建築大工技能士の資格を取



谷川雅俊さん



坂本司さん

得した。真壁和室など特殊造作ができる技術力を持ち、企業内の評価も高い。メンテナンスのフィードバックで吹き付け天井ボードのクラック対策で、下地に0.3ミリ厚の鉄板を入れて解消するなど、創意工夫に務めている。安全・安心の向上では人一倍強い意志を持っており、若手技能職の現場指導を行い、他の大工職からの信頼も厚いという。

無事故期間は15年10ヵ月で、早くから吹き抜け部階段室などの開口部を塞ぐ努力を重ね、墜転落防止に役立てている。2001年の技能五輪全国大会に参加して銀賞を獲得したほか、企業内では安全推進表彰や業績優秀賞も受賞した経歴を持っている。

坂本さんは青森県の公立工業高校を卒業してポラテックに入社、2013年からポラスハウジング協同組合で大工工事業に専念している。同協同組合の大工職の中でも最も技能・技術が優秀な施工者の一人で、施工現場では1級建築大工技能士としての技能を十二分に発揮して、品質の高い住宅を提供し、多くのお客さまから高い評価を受けている。常に効率性と品質に配慮しており、施工の合理化提案が社内の生産改善提案として採用されたこともある。作業前に常に段取りや具体的な作業内容のチェック、道具の手入れを怠らず、11年11ヵ月にわたって無事故を続けている。

また、「現場は展示場」という意識を持ち、自身の服装を整えるだけでなく現場の整理・整頓に細心の注意を払っているという。2009年の技能五輪に参加した経歴があり、お客さまから喜ばれる施工を目指し、品質を追求する姿勢や安全配慮も省施工などに関する意識が高いと評価されている。

今回の青年優秀施工者土地・建設産業局長顕彰では全国で109人が顕彰された。この結果、2015年に設けられて以来、累計で639人が建設ジュニアマスターに顕彰されたことになる。また、木住協が推薦した建設マスターは延べ45人、建設ジュニアマスターも延べ16人に増え、これからの活躍が期待されている。